

アナリスト レポート

厳しい状態にあるものの、
持ち直しの動きがみられる

しがぎん
経済文化センター
(産業・市場調査部)

県内景気 天気図

現在の景気



生産活動



個人消費



民間設備投資



住宅投資



公共投資



雇用情勢



3か月後の景気



凡例

- ☀️ 晴れ
- ☁️ 晴れ一部曇り
- ☁️ 曇り
- ☁️ 曇り一部雨
- 🌧️ 雨

前月比

- 📈 上昇・好転
- 📉 横ばい
- 📉 下降・悪化

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、前月に比べ低下した業種はなく、化学や輸送機械などが大幅に上昇したため、全体では2か月連続で大幅に上昇している。

需要面では、全店ベースの百貨店・スーパー販売額はウエイトの高い飲食料品をはじめ家庭用品や身の回り品、家電機器などが増加したため、全体では6か月連続で前年を上回っている。また、大型専門店などの他の小売業態の販売額は、コンビニエンスストアが5か月連続で減少しているものの、ドラッグストアは9か月連続、家電大型専門店が4か月連続、ホームセンターも6か月連続かつ大幅に増加しているため、小売業6業態計の売上高は6か月連続で増加している。これは、「新しい生活様式」に関連した家電機器やインテリア、ガーデニング用品などが好調に推移したためとみられる。一方、乗用車の新車登録台数と軽乗用車の販売台数は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う家計収入の減少や将来不安などによる買い控えが続き、ともに11か月連続かつ大幅な減少となっている。また、民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積は5か月連続で減少しているものの、減少幅は大幅に縮小した。新設住宅着工戸数は5か月ぶりに増加し、公共工事の請負金額は2か月連続で大幅に増加している。

このような中、雇用情勢をみると、新規求人倍率は2か月連続で大幅に上昇し、有効求人倍率も8か月ぶりに上昇したものの、4か月連続で1倍を下回っている。また、常用雇用指数は2か月ぶりに上昇したが、

京滋の景気動向

京都府・滋賀県の景気は、新型肺炎の影響により、悪化した状態が続いているが、一部に持ち直しの動きがみられる。

需要面をみると、個人消費は、経済活動の再開に伴い財の前年比は減少幅が縮小しているが、飲食サービスを中心に低調な動きとなっている。観光は、大幅に悪化しており、厳しい状態が続いている。設備投資は、大型投資が一服しているほか、非製造業を中心に収益環境の悪化を背景に案件を送り出す動きがみられることから、弱めの動きとなっている。住宅投資は、横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、公共施設の建築工事や高速道路関連工事などを中心に増加している。こうしたもと、

製造業の所定外労働時間指数は18か月連続かつ大幅に低下している。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動はほとんどの業種で増産に転じ、持ち直しの動きがみられる。需要面では、乗用車の登録・販売台数は引き続き前年を大幅に下回り、不振が続いているものの、小売業の売上高は全体に堅調に推移しているため、個人消費として均してみると持ち直していると考えられる。また、投資需要では公共投資は引き続き堅調に推移し、住宅投資と民間設備投資も底入れの兆しがみられる。したがって県内景気の現状は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、厳しい状態にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

今後の動向 県内製造業の生産活動は、内需に持ち直しの動きがみられ、さらにアジアや欧米向けの外需の回復を受け、全体に堅調な動きが広がり回復に向かうと思われる。また、個人消費については「新しい生活様式」関連の商品やサービスの需要が根強いとみられ、それに対応した業種、業態の業況の回復が全体をけん引し、緩やかながら回復基調に向かうと思われる。一方、民間設備投資や住宅投資などの投資需要は増加基調に転じるとみられるが、弱含みの低調な動きにとどまると考えられる。したがって今後の県内景気については、持ち直し色がより鮮明になってくると見込まれる。ただし、雇用面の悪化が消費や投資に悪影響を与えることが懸念されるため、雇用情勢を引き続き注視する必要がある。

生産は、下げ止まっており、一部に持ち直しの動きがみられている。また、雇用・所得環境をみると、新型肺炎の影響により、労働需給・雇用者所得ともに一段と弱い動きとなっている。

今後については、当面、新型肺炎の影響から悪化した状態が続くとみられるが、経済活動が再開していくと、徐々に改善していくとみられる。こうした中、新型肺炎の帰趨、政府等が打ち出している各種経済対策の効果、米中間の貿易摩擦を含む海外経済の動向、それらが管内経済に与える影響等に注視していく必要がある。

【日本銀行京都支店：「管内金融経済概況」(2020年9月8日発表)より】

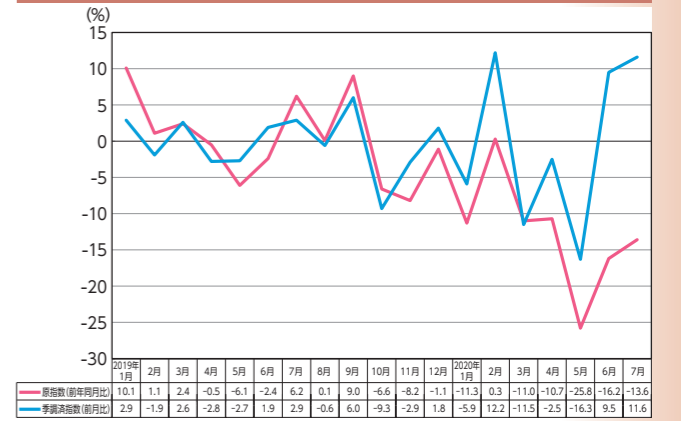
「鉱工業生産指数」の前月比は

2か月連続かつ大幅上昇

- ・鉱工業生産指数(2015年=100)の「原指数」(2020年7月)は100.8、前年同月比-13.6%となり、5か月連続かつ大幅に低下しているが、「季節調整済指数」は97.9、前月比+11.6%で、2か月連続かつ大幅に上昇した。季節調整済指数の3か月移動平均値(6月)は88.6、前月比+0.9%となり、5か月ぶりに上昇した。今後の動向を注視する必要がある。
- ・業種別季節調整済指数の水準は、100の水準を上回ったのは「生産用機械」(143.9)や「化学」(127.7)、「プラスチック製品」(103.5)など。一方、「電子部品・デバイス」(43.6)や「窯業・土石製品」(66.2)、「金属製品」(76.9)などは極めて低い水準で推移。
- ・前月との比較で、高ウエイトで上昇したのは、「化学」(前月比+19.3%、化粧品)や「輸送機械」(同+23.6%、自動車部品)など。一方、低下した業種はなかった。
- ・「出荷指数」と「在庫指数(製品在庫)」は、出荷は10か月連続かつ大幅に低下(原指数97.4、前年同月比-13.7%)、在庫は高水準ながら14か

月ぶりに低下(同121.8、同-0.2%)。業種別でみた在庫指数は「汎用・業務用機械」などで大幅上昇(同+59.9%)したが、「輸送機械」などで大幅低下(同-85.8%)。

鉱工業生産指数の推移(滋賀県、2015年=100)



「小売業6業態計売上高」は

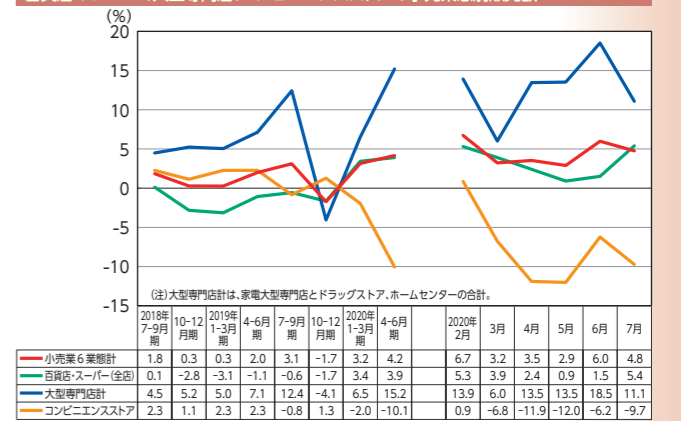
6か月連続で増加

- ・「処分所得(大津市・勤労者世帯)」(7月)は10か月連続かつ大幅に増加した(前年同月比+80.7%)。これは、特別定額給付金(新型コロナウイルス感染症緊急経済対策関連)によるものとみられる。「家計消費支出(同)」は2か月連続で減少したが、減少幅は大きく縮小(同-16.3%→同-0.7%)。
- ・「名目賃金指数(現金給与総額、事業所規模30人以上、2015年=100)」(7月)は113.7、同+0.6%となり、「実質賃金指数」は111.0、同+0.7%で、ともに7か月ぶりに上昇。
- ・「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象102店舗)」(7月)は、22,345百万円、前年同月比+5.4%となり6か月連続で増加している。品目別では、ウエイトの高い「飲食料品」は8か月連続で増加し(同+6.2%)、「家庭用品」は2か月連続で大幅増加(同+24.3%)、「身の回り品」も2か月連続かつ大幅増加(同+20.3%)、「家電機器」も微増ながら2か月連続で増加した(同+0.5%)。一方、「衣料品」は10か月連続で減少している(同-8.8%)。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」では3か月連続で増加(同+6.5%)。品目別では「衣料品」(同-7.3%)を除き他の品目で増加し、なかでも「家庭用品」(同+28.4%)と「身の回り品」(同+22.3%)が大幅に増加した。これは、大津市にある百貨店の閉店セールの影響と考えられる。
- ・大型専門店では、ウエイトの高い「ドラッグストア」(全店ベース=店舗調整前、7月、206店舗)は7,075百万円、同+8.2%で9か月連続の増加、「家電大型専門店」(同42店舗)は4,639百万円、同+15.9%で4か月連続かつ大幅に増加し、「ホームセンター」(同64店舗)も3,635百万円、同+10.8%で6か月連続かつ大幅に増加している。一方、「コンビニエンスストア」(同558店舗)は9,356百万円、同-9.7%となり5か月連続

で減少。

- ・これらの結果、「小売業6業態計売上高」(7月)は、47,050百万円、同+4.8%となり6か月連続で増加している。これは、新型コロナウイルス対策の「新しい生活様式」に関連したエアコンや空気清浄機、冷蔵庫などの家電機器、家庭用調理器具やテレワーク用のインテリア、ガーデニング用品などが引き続き好調に推移したためとみられる。
- ・「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」(8月)は、「普通乗用車(3ナンバー車)」が11か月連続かつ大幅の減少となっているのに加え(1,246台、同-22.1%)、「小型乗用車(5ナンバー)」も低水準かつ5か月連続で大幅に減少したため(963台、同-13.4%)、2車種合計では11か月連続かつ大幅の減少となっている(2,209台、同-18.5%)。「軽乗用車」も11か月連続の減少(1,538台、同-19.9%)。これは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う家計収入の減少や将来不安などによる買い控えが続いているものと考えられる。

百貨店・スーパー、大型専門店、コンビニエンスストアの小売業態別販売額(前年同期(月)比)



「新設住宅着工戸数」は

5か月ぶりに増加

- ・「新設住宅着工戸数」(8月)は649戸、前年同月比+4.5%となり、5か月ぶりに増加した。
- ・利用関係別では、「貸家」は208戸、同-10.0%で、2か月連続かつ大幅に減少したが(大津市80戸など)、「持家」は351戸、同+7.0%となり5か月ぶりに増加(大津市82戸など)。「分譲住宅」は88戸、同+41.9%で、2か月ぶりに大幅増加(大津市44戸など)、うち「分譲マンション」は2か月連続で申請がなく、すべて「一戸建て」で2か月ぶりに増加(前年差+26戸)。「給与住宅」は2戸(すべて大津市)。

新設住宅着工戸数の伸び率の推移(利用関係別)(前年同期(月)比)

